

友達とかかわり合って遊び、共に育ち合う幼児の育成

～学びを大切に作る保育を通して～

瀬戸内市立邑久幼稚園幼児教育研究会（代表者：奥田 悦代）

● 研究の目的 ●

直接的・具体的な体験が少なく、他者とかかわりが苦手な幼児が多い本園の実態から、幼児同士がかかわりを深め、友達と一緒に遊びや生活を展開し、共に育ち合っていくことが大切と考えて、研究主題を『友達とかかわり合って遊び、共に育ち合う幼児の育成』とした。

「人とかかわる力を育てる」ことを研究の視点する中で、子どもの姿、育ちを見る窓口として「遊びや生活の中の“学び”を大切にしていく」こととした。子どもにとって“学び”とは何か、子どもたちが今、何を学び、何を学ぼうとしているのか、何が育っているのか？を意識して“学びの姿”を探っていき、“学び”が「自己発揮」する姿にどうつながり、「人とかかわる力を深め、共に育ち合う」姿にどうつながるか？そのための環境構成や援助について園内研修し、保育に生かしていくことができる研究となることを目指した。幼児の姿をより深く、的確にとらえる力をつけていきたいと考え、サブテーマを～学びを大切に作る保育を通して～とした。

● 研究の経過 ●

“学びの姿”を園内研修で取り上げ、職員一人ひとりの保育に対する意識の変容と職員自身の学びとなるようにしていきたいと考えた。

1 園内研修の工夫～理論と実践をつないでいく。

(1) “学びについて考える”園内研修～理論から園内の共通理解を図る～

幼児が豊かに学ぶとは、幼児期にふさわしい生活を通して発達に必要なものを身につけていくことである。幼児が環境に興味や関心を持ち、積極的にかかわろうとする意欲・姿勢を持ち、技術や知識の習得だけでなく、心の躍動を伴い、“実感して分かる”ことであると考えた。

学びとは『知的好奇心からの学び』『人とかかわりからの学び』があがってきた。このことからこれらの“学び”をていねいに見ていくこととした。

(2) “学びについて考える・1学期の実態から”園内研修

～実践から見えてきた学びの姿を図表化する～

1学期の実践から具体的な“学びの姿”をあげ、その姿に必要なと考える教師の援助や環境構成を加えていくことで、自分の保育を振り返る機会とし、学びと学びをつなげていく教師の支援を探っていく。図表化することで、発達の過程の共通理解を図っていく。

〈方法〉

- 前回の園内研修でまとめた“学びの姿”の表に援助、環境構成を加えていく。
- ・ 学びのための教師の援助、環境構成を付箋紙に書き出す。
- ・ 表に付箋紙を加えていく。（どの学びのための支援であるか）

〈まとめ〉

- 学びの姿を理論から分類していくのではなく、1学期に見取った学びの姿を挙げていき、それらを分類していくことで、より理論と実践（保育）が繋がっていくことを実感した。



図表 「人とかかわる力をつけるために～学びを大切に～」

